

都道府県事業実施状況報告書及び評価報告書

整備事業
I 産地競争力の強化を目的とする取組用

市町村名	事業実施主体名 メニュー① (対象作物・畜種等名)①	事業実施後の状況①						成果目標の具体的な実績① 達成率	メニュー② (対象作物・畜種等名)②	事業実施後の状況②						成果目標の具体的な実績②	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費 (円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考
		計画時(平成24年)	1年後(平成25年)	2年後(平成26年)	3年後(平成27年)	目標値(平成27年)	達成率			計画時(平成24年)	1年後(平成25年)	2年後(平成26年)	3年後(平成27年)	目標値(平成27年)	達成率				交付金	都道府県費	市町村費	その他				
酒田市	土地利用型作物(稲(新規需要米を除く))	タバコ値の0.4ポイント低下、食味値の向上。かつ、品質分析の結果施肥等生産技術への反映。	食味値75.9	食味値74.6	食味値74.0	食味値75.0	食味値78.0	-50.0%	米の千粒重が小さく、タンパク値が0.2ポイント増加してしまい、成果目標の達成に至らなかった。	特別栽培米の取組人数12.9%(18人)	特別栽培米の取組人数12.9%(18人)	特別栽培米の取組人数13.9%(19人)	特別栽培米の取組人数21.6%(32人)	特別栽培米の取組人数21.4%(30人)	102.4%	乾式集塵装置一式(湿式から乾式への高度化)	108,675,000	51,750,000		56,925,000	H25.9.5	乾式集塵装置を設置することにより、集塵装置運転に係る費用の削減、環境負荷の軽減が図られた。目標達成については、施肥技術の周知や現地巡回により、タバコ値0.4%低下及び食味値向上の取組みを進めたが、施肥量の削減や生育中期の水管理、中干しがなされなかった水田が一部で見られたためタンパク値が高くなった。食味値については、適正な生育管理を行って登熟を高め、米の成分品質を向上する取組を推進したが、管理の徹底に至らない水田が一部で見られ、目標を達成できなかった。今後は、栽培指導における施肥管理や水管理を徹底し、タンパク値を低下させるとともに成分品質を高めて食味値を向上して成果目標の達成を図る。特別栽培米への取組については、「つや姫」の特別栽培米作付推進に地区全体で取り組んだ結果、成果目標を達成した。今後とも土づくりを中心とした特別栽培米の推進及び特別栽培米農家の増加に取り組む。	乾式集塵装置を設置することにより、集塵装置運転に係る費用の削減、環境負荷の軽減が図られた。成果目標1のタンパク値0.4%の低下については、施肥管理や中干しの確実な実施を指導したが、中干し、追肥の実行が遅れた事例が見られ、結果としてタンパク質含有率が高くなった。食味値においては、成分品質が高まらず、成果目標の達成に至らなかった。今後は、施肥、栽培管理指導を徹底してタンパク値の低減に努める。また、登熟を向上して食味値を高める取組を推進し、県として一層の技術指導や啓発活動を行う。成果目標2の特別栽培米の取組人数については、地区の積極的な参加により目標を上回る成果を上げている。県としても引き続き特別栽培の取組を進めるとともに、高品質米生産を支援していく。			
酒田市	土地利用型作物(新規需要米(飼料用米))	事業実施地区内における水稲作付面積のうち、新規需要米が占める面積割合が5ポイント増加	新規需要米作付割合11.9%(7ha/59ha)	新規需要米作付割合11.7%(7ha/60ha)	新規需要米作付割合11.8%(7.3ha/62ha)	新規需要米作付割合18.0%(11.8ha/65.5ha)	新規需要米作付割合16.9%(10ha/59ha)	122%	主食用米の生産から新規需要米生産へ移行した結果、成果目標を達成した。	多収性専用品種の栽培割合71.4%(5ha/7ha)	多収性専用品種の栽培割合74.3%(5.5ha/7ha)	多収性専用品種の栽培割合75.3%(5.2ha/7ha)	多収性専用品種の栽培割合100.0%(11.8ha/11.8ha)	100%	大型循環乾燥機の高度化及び乾式集塵装置増設 荷受計量機用操作盤の高度化及び自動水分計増設 自動計量包装機設備増設	73,375,995	34,940,000		38,435,995	H25.9.30	本事業で大型乾燥器や計量包装機を整備したことで、乾燥調整作業の効率化が図られた。また、乾式集塵装置を導入したことで集塵装置運転に係る費用の削減、環境負荷の軽減が図られた。以上のことから施設の運営コストが削減された。新規需要米(飼料用米)の作付拡大については、従来の機械設備を活用できる飼料用米への作付け要望が高く、また、大口実需との結びつきによる地域内生産が図られ、目標を達成した。多収性専用品種(ふくひびき)については、講習会等で多収性専用品種の栽培方法や品種特性を説明し、地域で合意を図る取組みを進めた。栽培者から品種の切り替えについて同意を得られ、目標を達成することができた。今後とも飼料用米生産拡大の要望に応えられるよう対応していく。	大型乾燥器や自動の水分計や包装機の整備により作業の自動化が図られ、経費削減や作業の効率化などが進むとともに品質向上にもつながっている。成果目標1は、水田活用の直接払い交付金を活用した取組みを進めたことで計画以上に新規需要米作付面積を拡大することができた。成果目標2については、計画のとおり飼料用米を多収性品種(ふくひびき)に切替えることで、達成することができた。県としても引き続き飼料用米生産の定着及び生産拡大を図るとともに、低コストや多収性の技術支援を行っていく。				

三川町	庄内たがわ農業協同組合(横山地区)	土地利用型作物(稲)	重金属等の有害物質の低減に取組む面積を10ホイント増加	重金属等の有害物質の低減に取組む面積 0% (0ha/水稲作付面積 343ha)	重金属等の有害物質の低減に取組む面積 15.5% (58.8ha/380.2ha)	重金属等の有害物質の低減に取組む面積 15.3% (59.1ha/381.0ha)	重金属等の有害物質の低減に取組む面積 10% (35ha/343ha)	155%	重金属等の有害物質の低減に取組む面積が15.5ホイント増加し、成果目標を達成した	土地利用型作物(稲)	販売農家のうち特別栽培米に取組む面積を12.6ホイント増加	販売農家のうち特別栽培米に取組む面積を68.5% (72戸/105戸)	販売農家のうち特別栽培米に取組む面積を68.5% (76戸/106戸)	販売農家のうち特別栽培米に取組む面積を77.6% (76戸/98戸)	販売農家のうち特別栽培米に取組む面積を78.9% (75戸/95戸)	販売農家のうち特別栽培米に取組む面積を81.1% (86戸/106戸)	82.5%	各集落役員を通じて組合員へ理解を求め、働きかけが、12.6ポイントの増加目標に対して10.4ポイントの増加に留まり、成果目標の達成に至らなかった	サイロ冷却装置導入・ダクト設置工事 粗選機高度化工事	54.075.000	25.750.000			28.325.000	H25.9.3	サイロ冷却装置を導入したことにより、籾の呼吸損失量削減、保管中の籾水分低下防止が図られ、品質が向上した。粗選機高度化に伴い、従来の機械に排棄ファンを設置したことで選別能力が高まり、狭雑物の混入が低下したため粗摺り作業効率が改善した。 成果目標1の重金属等の有害物質の低下に取組む面積の増加については、地区農家の協力も得ることができた。成果目標2の環境保全型農業を取り組む面積の増加については、特裁ひとめぼれの作付を推進したが、農業者の特裁技術習熟が進まず、特裁に切替える農業者が増加しなかったため目標を達成出来なかった。今後は、特裁ひとめぼれ及び特裁つや姫作付の推進、特裁技術の講習会を実施するなど農業者の理解を進め、新たに特裁米を取り組む戸数を増やし、成果目標の達成を図る。	サイロ冷却装置を導入したことにより、貯蔵中の品質変動が防止された。粗選機の高度化により、狭雑物の混入が低下したため粗摺り作業効率が改善した。 成果目標1の重金属等の有害物質の低下に取組む面積の増加については、地区農家の協力も得ることができた。成果目標2の環境保全型農業を取り組む面積の増加については、特裁ひとめぼれの作付を推進したが、農業者の特裁技術習熟が進まず、特裁に切替える農業者が増加しなかったため目標を達成出来なかった。今後は、特裁ひとめぼれ及び特裁つや姫作付の推進、特裁技術の講習会を実施するなど農業者の理解を進め、新たに特裁米を取り組む戸数を増やし、成果目標の達成を図る。	
三川町	庄内たがわ農業協同組合(東郷地区)	土地利用型作物(稲)	重金属等の有害物質の低減に取組む面積を10ホイント増加	重金属等の有害物質の低減に取組む面積 0% (0ha/水稲作付面積 289ha)	重金属等の有害物質の低減に取組む面積 21.0% (66.0ha/314.4ha)	重金属等の有害物質の低減に取組む面積 29.8% (91.6ha/307.1ha)	重金属等の有害物質の低減に取組む面積 10% (29ha/289ha)	298.0%	重金属等の有害物質の低減に取組む面積が29.8ポイント増加し、成果目標を達成した	土地利用型作物(稲)	販売農家のうち特別栽培米に取組む面積を34.2ホイント増加	販売農家のうち特別栽培米に取組む面積を23.9% (28戸/117戸)	販売農家のうち特別栽培米に取組む面積を27.7% (31戸/112戸)	販売農家のうち特別栽培米に取組む面積を35.1% (39戸/111戸)	販売農家のうち特別栽培米に取組む面積を73.3% (77戸/105戸)	販売農家のうち特別栽培米に取組む面積を58.1% (68戸/117戸)	144.4%	販売農家のうち特別栽培米に取組む面積が49.4ポイント高まり、成果目標を達成した	湿式集塵装置高度化工事 粗摺プラント高度化工事	73.395.000	34.950.000			38.445.000	H26.2.27	粗摺プラントを高度化したことにより、処理量の増加及び施設運営コストの減少につながった。湿式集塵装置の導入後、塵が建物周辺に散乱せず衛生環境が改善した。 成果目標1の重金属等の有害物質の低下に取組む面積の増加については、地区農家の協力も得ることができた。成果目標2の環境保全型農業を取り組む面積の増加については、特裁への切り替えが計画どおり進み目標を達成出来た。 今後とも特裁への取組を通じて環境負荷が少なく、高品質米の生産を推進していく。	粗摺プラントを高度化したことにより、時間当たりの籾処理量が増加し、作業効率が向上して施設運営コストが削減された。湿式集塵装置の導入後、施設内の衛生環境が改善し、労働環境が向上した。 成果目標1の重金属等の有害物質の低下に取組む面積の増加については、地区農家の協力も得ることができた。成果目標2の環境保全型農業を取り組む面積の増加については、特裁への切り替えが計画どおり進み目標を達成出来た。 今後とも特裁への取組を通じて環境負荷が少なく、高品質米の生産を推進していく。	
天童市	天童市農業協同組合	土地利用型作物(稲)	下位等級指数を減らし品質制の出荷体制を図る。 ※下位等級指数3削減	(7中5平均) 下位等級指数 2.2% (98.94)	下位等級指数 1.9% (81.54)	下位等級指数 4.2% (170.9)	下位等級指数 1.4% (52.98)		下位等級指数 1.4% (61.68)	下位等級指数 3 (3割削減)	100.0%	10aあたりの労働時間を削減する。 ※ 0.92h → 0.66h	労働時間 0.92h/10a	労働時間 0.41h/10a	労働時間 0.43h/10a	労働時間 0.66h/10a	188.5%	10aあたり労働時間を0.49h削減した	穀類乾燥調製貯蔵施設(粗摺りユニット 2.88t/h、色彩選別機5.6t/h、フレコン計量機 10t/h)	57.750.000	27.500.000			30.250.000	H26.1.20	穀物類乾燥調製施設の色彩選別機及びフレコン計量機を本事業で導入したことにより、一等米の比率が向上し、計量に係る時間短縮の効果があつた。 成果目標①については、色彩選別機の高精度な分別に加え、栽培において白未熟粒や斑点米カメムシ等の発生を低下する取り組みを推進した結果、下位等米の比率が下がり、目標を達成することができた。 成果目標②については、調製作業にかかる高効率機械の導入と効率的な労働力分配を行って施設運営を実施した結果、目標を大幅に上回った。今後も導入機械による適切な調製作業や効率的な使用に努める。また、高品質米生産技術の向上に努める。 なお、出荷量については、米生産農家及び米生産数量目標が減少したため計画数量の86%程度となっている。	高効率色彩選別機の導入により一等米比率を上げることが可能となったことから下位等級の割合が減少した。また、乾燥調製施設の機能強化により乾燥調製作業時間の短縮が図られた。成果目標を達成していることから、県としても引き続き高品質米生産と効率的な施設運営を支援し、事業効果の維持を図る。 なお、出荷量が計画数量に至っていないが、これは、当該地区の米生産農家数が減少しつつあり、出荷量が減少していることや米生産数量目標が減少していることによるものであり、事情やむをえないものと考えられる。	

上山市	山形農業協同組合	土地利用型作物(稲)	直接販売・契約栽培取扱量の割合を30ポイント増加	直接販売・契約栽培取扱割合25.6% (180t/704.43t)	-	直接販売・契約栽培取扱割合81.42% (55.82ポイント増)	直接販売・契約栽培取扱割合58.56% (32.96ポイント増)	直接販売・契約栽培取扱割合55.6% (30ポイント増)	直接販売・契約栽培取扱割合が33.0ポイント増加し、成果目標を達成した	土地利用型作物(稲)	下位等級指数を5割削減	下位等級指数0.74% (5.22t/704.43t)	-	下位等級指数0.00% (0t/844.59t)	下位等級指数0.00% (100%減)	下位等級指数0.37% (50%減)	下位等級米を0%に低減し、成果目標を達成した	穀類乾燥調製貯蔵施設 鉄骨造・貯蔵ビン型 ・建床面積1,178.03㎡ ・スタブデホ8基 ・貯蔵乾燥角ビン12基 ・処理量1,620乾粒t	635.137.683	255.150.000	379.987.683	H26.8.27	<p>カントリーエレベーターを整備し、高品質米の生産、出荷が可能となった。小売店や個人消費者等に対しての直接販売又は中食・外食用等向けの原料用等米の契約栽培の取組を推進し、目標を達成した。</p> <p>また、下位等級指数の割合については、カントリーエレベーターの整備によって高品質米の調製が大規模で可能となったことに加えて、稲作栽培管理体制の強化により、防除を適切に実施したことで目標値を達成した。今後とも施設の運営・管理を適切に行うとともに栽培管理体制を強化して高品質米生産を推進する。</p> <p>なお、H27の全生産量(玄米出荷量)は827.55tで計画数量の64%程度となり、一方、カントリーエレベーターの荷受量(乾粒換算)は1413.18tで計画処理量の87%程度となった。これは、H27は天候不順のため登熟が進まず網下の米の割合が多くなったため玄米出荷量が減少したことと、米生産数量目標が減少していることによるものである。今後は、登熟を高めるため適切な肥培管理を指導し生産量の向上に努める。</p> <p>本事業で穀類乾燥調製貯蔵施設を整備したことにより小売店や個人消費者、中食・外食用等向けの原料用等米についてそれぞれのニーズに対応した出荷が可能となったことから、販路拡大も進み、直接栽培・契約栽培に係る成果目標を達成した。また、カントリーエレベーターの整備及び稲作栽培管理体制の強化を実施したことで品質が向上し、下位等級指数が0%となり成果目標を達成した。</p> <p>県としても引き続き事業効果維持のため支援していく。</p> <p>なお、H27は天候不順による登熟低下のため全生産量が目標数量に達しなかった。事情やむを得ないところもあると考えるが、今後、気象変動に対応した栽培技術の徹底により生産量の向上を図るよう指導していく。</p>
			109.9%	200.0%																			

都道府県平均達成率	79.4%	総合所見	各事業実施主体とも成果目標達成に向け取り組み、指導を推進した結果、ほとんどの目標を達成することが出来た。未達成の目標を有する2つの事業実施主体については、早期の目標達成に向け重点的に指導を行う。
-----------	-------	------	---

- (注)1 別紙様式1号の2のIに準じて作成すること。
2 要綱第3の4の(2)のアのただし書きの場合にあつては、事業実施後の状況の欄を追加し、記入すること。
3 別添として、各事業実施主体が作成した事業実施状況報告書を添付すること。
4 「事業実施主体の評価」欄と、「都道府県の評価」欄については、評価の対象となる年度のみ、それぞれの所見を記入すること。
5 「総合所見」欄については、評価実施年度の取組について、都道府県全体の総合所見を記入すること。
6 「都道府県平均達成率」欄は、都道府県において事業実施地区で掲げている成果目標毎の達成率の平均値とする。